

第 23 回旭川流域連絡協議会（本会）議事録

日 時：平成 19 年 10 月 15 日（月） 14:00～16:00

場 所：美咲町林業センター 研修室

参加者：岡山市、赤磐市、真庭市、美咲町長、久米南町長、新庄村、吉備中央町、鏡野町、
岡山県美作県民局、岡山県備前県民局、AR-NET
岡山県土木部河川課、国土交通省岡山河川事務所

1. 開会挨拶他

【岡山河川事務所長 浦上所長】

岡山河川事務所長の浦上でございます。

本日付で岡山河川事務所長を退任となり、明日からはお隣の鳥取県の都市整備部次長として参ります。本来ならばここに来る資格はないのですが、皆様方にお声をおかけしたこともあり、また是非ともお伝えしたいこともありましたので出席させていただきました。紐綴じになっていない意見交換河川整備における中長期的な事業展開について資料がございますのでそちらをご覧ください。

意見交換

【岡山河川事務所長】

・河川整備における中期的な事業展開について説明

《質疑・応答》

【美咲町長】

なんら抵抗もするものではないと思う。整備をしていただけるなら、いくらでもしていただきたい。

【岡山県】

県の方も、かなり厳しい財政事情のなかで、多々厳しいご指摘をいただいている。県予算がさらに厳しい状況があるなかで、どういう取り組みをしていくのか、具体的にどうやって取り組んでいけばよいかなかなか見えてこない状況にある。

【美咲町長】

今日は首長さんが少ないようだが、我々がこういうことをしてきたとか、していこうとしている等、ございませんか。「してください、してください」とお願いするしかない。所長がおっしゃられたとおり後から投資するより先にしたほうが良いと思う。

【岡山河川事務所長】

今まで東京で、経済財政諮問会議を小泉内閣、安倍内閣と連続やってきた。ただ、その

会議では、結局、東京での目線でしか物を見ていない、というのが最大の問題である。やはり、私どもとしては、地域の実情をその都度東京にあげるといふ努力はしているが、肝心なのはやはり地域の首長さん方、あるいは、それに関係しておられる方々にもっと大きな声を出していただきたい。それで共に手を携えて今の、東京中心の議論を打破していかなくてはいけないのではなからうかという様に感じている。

【美咲町長】

市町村合併で78人の大きな声だったのが27名しか声にするものがいなくなってしまった。それだけ声が弱くなっている。

【岡山河川事務所長】

いつもは“不都合な岡山平野の真実”というタイトルで、あちらこちらで、講演をやっている。ただ、今日お集まりいただいている皆さん方の中では、本当にその問題がそのままあてはまるのが岡山市だけでしたのでちょっと今日は切り口を変えて、社会資本整備という観点でその説明をさせていただいた。冒頭で岡山は晴れの国かという、割と刺激的なタイトルのついている紙があるが、観光客相手に“晴れの国”と言って来ていただくのは何ら問題ないのだが、それをここにお住まいの方々まで、本当に“晴れの国”だと信じ切ってしまうと、防災に対してまったく注意を払わないということはやはりおかしいだろうと、そういうことをご理解いただくために過去のデータを遡って引っ張り出したというのが、この図である。岡山、あるいは直轄で管理している区間のエリアに関してはそういう意識が少しずつ変わってきているという実感は持っているが、これがやはり県の全体に広がっていけばということで今日特にお時間を頂戴した。

浦上所長退席挨拶

【岡山河川事務所長】

今日は本当にここに座っている立場ではないのですが、皆様方にお集まりいただくようにセットした後でございましたので、特に参加をさせていただきました。2年半、岡山河川事務所の所長としまして、いろんな取り組みをしてきたつもりでございますが、やはり心残りはいくつか、旭川流連の活動を活発にしたかった、そして首長さんご自身にもっとたくさん来ていただける会にしたかったというのが残念なところでございます。ただ、私が参って来たときと比べて、環境と防災だけであったものを少し間口も広げて治水も環境も利水も全てお話しが出来るようなそういった会に変えていただきました。今後この会がますます発展して、全国的にも、流連という組織があるのは珍しいようなので、もっと活性化できれば、というように思っております。2年半どうもありがとうございました。

～浦上所長退席～

会長・副会長の選任の提案

【事務局】

会長、副会長、監事について、再任のお願い

《質疑応答》

異議無し

【事務局】

それでは、会長に美咲町長さま、副会長に真庭市長さま岡山市長さま、監事に岡山県河川課長さまという体制で今後2年間お願いしたいと存じます。では、代表しまして新会長の奥村忠夫美咲町長に一言ご挨拶をお願い致します。

【美咲町長】

改めましてみなさんこんにちは。ただいま新しくこの会長の任をとということで皆さん方のご推挙をいただいたということでございます。過去2年間お引き受けさせていただいたんですが、なにぶん私も不慣れな部分も大変たくさんありまして、何かとご迷惑をおかけしたところでございますが、この度引き続き、また、役員をとということで、会長の職を引き続けさせていただきました。一生懸命頑張っていきますので、皆さん方もよろしくお祈りします。

2、議事

討議事項

配布資料の議事次第に基づき、以下の討議事項について会議を行った。

1) 予算について

【事務局】

- ・平成18年度決算報告
- ・平成19年度活動計画
- ・平成19年度負担金のお願い
- ・規約改正
- ・平成20年度以降の負担金について

《質疑応答》

特になし

2) AR-NET 関連情報

【AR-NET 池田氏】

旭川流域ネットワークの世話人をやっております、池田満之です。平素は旭川流域ネットワークの活動に関し、ご協力ご支援いただきまして誠にありがとうございます。まず始めに御礼申し上げます。また今日はこういった発言の場をいただきまして、重ねて御礼申し上げます。では、早速報告事項から順番にお話させていただきます。

- ・旭川一斉水質調査について
- ・水環境フェア 2007in 四万十の参加報告

- ・旭川流域交流シンポジウム
- ・AR-NET からのお願い事項について

内容については議事録最終ページ以降、別紙1を参照

《質疑応答》

【美咲町長】

一斉水質調査の結果について、今年はダムの関係で水質が悪かったということを知ったのだが、そうではないのか。最近たくさん旭川ダムの水を抜いておられるようだが。

【AR-NET】

その辺りがまだはっきりしない部分がありまして、今年の場合は全体的にあまり状態が良くなかったのもう少しダムの方の関係とか、河川管理者等も含めて検討してまた11月のシンポジウムのときに、その報告についての総括的な話をする予定ですので、きちっとした結果を出して、事務局を通してご返答できればと思います。

【美咲町長】

岡山市のところは、赤い印がたくさんあるのだが、上流の方の5,6箇所あるのはどの辺りなのでしょう。

【AR-NET】

このなかで久米南町の誕生寺川とか、吉備中央町の旧賀陽町の地域等は、慢性的に汚れが出やすいところで、川の大きさに対して生活排水やいろんな物の流入割合がどうしても高いという条件があるのだと思います。それがどうしても、天気が良かったりして環境が安定していると、余計にそれが強く出やすい部分があるのではないかと考えています。その上側にあります当摩川等、赤くなっている場所というのはだいたい毎年数値が高いので、この辺りは下流の岡山市もそうなのですが、やはり数値が高く出るところは他の地域以上に生活排水に配慮してあげて、川自体の浄化能力が弱いということを理解する必要があるのではないかと、思っております。是非とも関係している自治体の方々におかれましては、特に赤い印が付いているところは、慢性的なポイントになってきておりますので、その地域の生活排水の処理等、全体の流れについてもう一回地域の中でご検討頂ければと思います。

【美咲町長】

下流については、岡山市の周りにたくさんあるのはいたしかねないとしても、中流のところには6つ、数値が高い地点があります。一番上はどこになるのですか。

【AR-NET】

落合の当摩川のところが最も上で赤くなっています。

【美咲町長】

それから誕生寺川と。

【AR-NET】

美咲町の通谷川、賀陽のところと、中流までです。

【発言者不明】

調査は毎年同じところでやっているのか。

【AR-NET】

毎年同じところでやっています。

【吉備中央町】

吉備中央町では2つほど数値が高くなっているが、今加茂川庁舎付近の公共浄水をやっていて、来年くらいから開始になりますのでいくらか変わってくると思いますが、さっきお話しにありましたように賀陽側が全然やっていない状況です。

【美咲町長】

下水をこしらえても河川に水がないでしょう。

【AR-NET】

そうですね。その辺も旭川は非常に問題です。

【岡山県】

県の管理の旭川ダムですが、今年は国道付け替えの関係で水位を下げた状況があったのですが、たまたま7月になってまとまった雨が降って、ある一定の高さの制限の水位まで上がってしまうような状況になりまして、継続的に放流はしていたのですが特段具体的な事を聞いていませんでした。

【美咲町長】

大変水が減っております。

【岡山県】

今は流況が悪いです。

【美咲町長】

旭川でバス釣り大会をしているのですが、今年は中止にしました。水位が低くてモーターボートが入れないくらい水が減っている。5, 6年前の湯水に近いくらい、水位が下がっている。

3) 話題提供

【事務局】

河川環境部会関連情報

- ・河川観光まちづくりセミナーと田舎暮らし河の遺産ツアーについて
- ・水生生物調査について
- ・コイヘルペスウィルス発生状況について
- ・水質事故の発生状況について
- ・地域活動支援について
- ・旭川かいぼり調査 2007 について

かいぼり調査について、来年度以降から旭川流域連絡協議会としての主催と、費用負担に

ついて承認のお願いをした。

《質疑応答》

【美咲町長】

かいぼり調査は既に募集しているのか。

【事務局】

募集しています。300～400人程の参加予定

【美咲町長】

今、水が無いのではないか。

【AR-NET】

この写真よりは水が流れていて、川が二手に分かれているところでやります。水を止めて、干あがった状態でやります。

【事務局】

来年度以降ですが、かいぼり調査を旭川流域連絡協議会主催と予算の支出をさせていただいてもよろしいでしょうか。

《質疑応答》

異議無し

【AR-NET】

今年度からも出来れば主催を引き受けていただきたい。

《質疑応答》

異議無し

情報提供

災害情報連絡部会関連情報

【事務局・岡山県】

・中小河川の円滑かつ迅速な避難の確保について

《質疑応答》

特になし

【事務局・岡山河川事務所】

・水防法15条APについて

・市町村向け川の防災情報について

・防災・減災フォーラム2007in岡山について

・自主防災モデル地区の取り組みについて

《質疑応答》

【赤磐市】

85ページに吉井川の平成10年の台風10号の写真があります。これをみたらみんな

が暗くなります。実際の現場はもう、暫定堤防ですが、改修されておりまして、いつまでこの写真が出るのか、という意見があります。可能でしたら、これを使うなというわけではないのですが、復旧として新しい堤防ができたり、ということと比較してほしい。6月3日に国交省の防災訓練がありましたが、その際に市長以下大勢議員もおいでいただきまして、訓練のパンフレットの表紙がこの写真でした。その際に、復旧との比較などをしていただけないか、という話が出ました。もし市長が出席されていたらこのような事を言ったと思いましたので、発言させていただきました。

【事務局・岡山河川事務所】

過去の災害を忘れないというところから、どうしてもあえて使わせていただいたという次第です。今後この写真を使うときはその辺りを考慮させていただきます。

【植田副所長】

大変申し訳ございませんでした。今後使用にあたっては事前調整を十分行っていきたいと思いますのでよろしくお願いします。防災・減災フォーラムに関して私の方から少し補足させていただきます。皆さん御存知の通り、円山川というのは一級河川で国が管理しています。この堤防が、平成16年3箇所破堤しまして、豊岡市内が浸水して4万人程度が被害を受けました。その状況写真が左上の方に載っています。旭川の上流部から下流部に向けても、いつ同じようなことが起きるか分かりません。円山川の堤防決壊時、責任者として中貝市長が陣頭指揮し出来たこと、出来なかったことを基調講演していただけます。非常によい話でございます。当日は先着300名なので、ぜひ流域連絡協議会の首長のみなさま、聞いていただければ、今後の行政の参考になるのではないかと思います。

情報提供

【事務局・岡山河川事務所】

その他

- ・旭川水系河川整備基本方針について
- ・各種点検、維持管理計画等について
- ・吉井川水防演習結果報告
- ・吉井川流域連絡協議会の発足について

《質疑応答》

なし

3. 閉会の挨拶

【岡山県、古埜河川課長】

みなさま方におかれましては長時間にわたりまして、旭川流域連絡協議会の本会、いろいろ御討議いただきありがとうございました。また色々意識していただきまして、会の目的をさらに認識をしていただいて、さらなる連携と協力方、よろしくお願いいたします。本日はどうもご協力ありがとうございました。

以上

別紙 1

AR-NET 池田氏の説明内容

- ・ 旭川一斉水質調査について

資料の方ですが、手元の厚い資料の 20 ページからを見ていただきたいと思います。まず、平成 19 年度旭川一斉水質調査の結果に関して報告いたします。今年、一斉水質調査は 9 年目になりました。今年は 117 箇所への 429 名の方にご参加をいただいて調査を

しました。まず、CODに関しては図を20ページに載せさせていただいておりますが、例年に比べますと、若干水質的には全体的に低下しておりました。これにつきましては、今年が水防訓練等、様々な要因で少し時期が1、2週間ずれたということもあって少し悪化したのか、その辺がちょっとまだはっきりしませんけども、若干例年よりは悪化したかなという傾向が見られます。

上流域から中流域にかけては、全体としては水質状況は良いんですけども、支川を中心に所々水質値の高い値が見られております。特に下流域にいたっては、砂川水系・笹ヶ瀬川水系等に関して、百間川・児島湖に至るエリアというのが慢性的に水質が悪いという状態が今回も確認されています。なかでも、下流域、岡山市内の旭川の西岸から旭川から取り込んだ水がずっと市内を流れて、笹ヶ瀬川に流れ込んで、それが児島湖に行くというエリアがありますが、ここのエリアが慢性的に悪く、今回も非常に数値的に悪い状態でした。この状態につきましては、毎年何とかしないといけないということもあって、つい2日前ですけども、環境省の中国四国地方環境事務所さんが主催という形になりまして、笹ヶ瀬川流域の水辺環境保全活動推進事業というのをやりました。これには、特に旭川から水をとって、笹ヶ瀬川に流れ込んでいる都心部の3つの小学校区、鹿田小学校区と大元小学校区と津島小学校区から学校選抜で親子の方々に参加してもらい、水の行方を探っていったなかで、自分たちの町中から出ている汚れ、ゴミが下流に影響を与えている状態をみなさんで確認いただきました。参加された子供もそうですけど、親の方が自分たちの流している生活排水がどういうふうの流れ、最後どうやって汚れてきているのか自分の目を見たことによって、今までは気にしなかったらしいんですけども、日常の生活排水の取り扱い等、汚れた水を気にせず流しているということを見直したいということ意識したというお母さんがおられたので、こういった慢性的に水質が悪いエリアについては、今、小学校なんかでも総合学習とか水質調査とかやられていますが、PTAの方も入ってもらって、親子で地域と一緒に水の流れを追っていくことによって、自分たちがいかに川に負担をかけているかということ、実際に認識するという行為を、これからも地道にやっていくことがこの水質の改善に効果があるのではないかと、このことをやっていて感じました。ただ、児島湖に関しては漁師さんとか淡水魚研究会の方に聞いていると、栄養が一杯入るお陰か、琵琶湖に比べると100倍の漁獲高あると聞いて、良いのか悪いのかよくわからないというようなところがあったのですが、今年は特に台風が来るべき時期に来ないということから水温が高かったり、といった事が原因で不漁になっているという話がありまして、そういった漁師さんにとっては深刻な状態、環境変化が出てきているという事も聞きました。そういった点で、来年度はちょうど一斉水質調査も10年目になりますので、10年できちとした振り返りと、それから10年間で調査手法とか調査するための道具も変化をしてきておりますので、調査項目等の見直しも来年度は考えていきたいと思っておりますので、来年以降もぜひご協力いただければと思っております。これが、一斉水質調査に関するご報告です。

・水環境フェア 2007in 四万十の参加報告

今年の8月5日～7日に、水環境フェアが今年は四国の四万十川で開催されました。四万十川で開催するにあたって、全国から12団体が選抜されまして、全国の若い人たちの声を聞いて、今後の河川はどうあるべきなのかを話そうというのが、一つの大きな分科会のテーマとしてあげられました。その全国12団体の一つに私どもの旭川流域ネットワークが選ばれて、高校生3人と大学生1人と私が行ってこの分科会に参加させていただきました。若い人たちが今、川をどう考えていくかというおもしろい議論だったので、皆さん方ともぜひ情報を共有した方が良くないかと思ひまして、別紙の資料をつけさせていただきました。この分科会ではまず、今の川を若い人たちはどうとらえているのかということが話し合われて、そこでは例えば町のシンボルだということで川から『顔』という字をイメージしたという人もいましたが、ほとんどの人はやはり今の川の状態はよくないとマイナスのイメージを示す人が若い子は多かったです。特に地元の四万十の高校生は、『嘘』という字を書いて四万十川を最後の清流というのは言い過ぎだと言っていました。今についてはマイナス的なイメージでとらえているのですが、じゃあ20年後はどうなっていて欲しいの、ということを知ると、『伝』と言って、20年前のことを子供たちに伝えるという受け継ぎをやっていきたいだとか、今は濁っているのだけど20年後は清らかになってほしいということで、『清』という文字を出すなど、20年後に関してはプラスになってもらいたいということをお願いしているというのが多かったです。ただ、そういう前向きに、なんとかかなりたいと願う子供たちがいる反面で、将来のことはわからないと『闇』だと書いている子とか、このままどうせ川は汚れて魚もいなくなってしまうということで、『無』だと悲観的に割り切っている子供たちも出てきているということにおいては、私たち大人がもうちょっと考えるべきことがあるのではないかなというふうに思います。一番自分たちは何が問題だと思うのかということ、やはり生活排水とか、ゴミとか、水質悪化とか不法投棄などということ意識している子供たちが多いいということがわかりました。

中には岡山市の街中もそうなのですが、古い下水道がついていて、そこでは合併式の下水道がある関係で降雨時に未処理の下水が流れ込んで川を汚しているのが問題だということを取り上げている子供もいました。じゃあ、明日の川づくりの提言に向かってどうしたらいいのか、ということについての話し合いの時に、旭川流域ネットワークから参加した子供が、旭川の源流の碑の活動とかを通していろいろ学んだのだと思うのですが、こうした課題というのはみんながもっと川に愛着を持つようになったらよくなるにではないか、川との接点がなぜ減ってきたのかということ、もう一回考え直すべきでないのか、ということ投げかけました。それに対して全国の方々から、河川敷でのイベントを増やしてもっと環境意識を高めるべきだとか、定期的な清掃活動をやることによって、川の思いづくりという、そういった事業をやったらどうなのか、川との距離感を縮めるためのきっかけをつくるのが大事だ、といったことが話されました。

最後にどういう川との遊びやイベントならみんなが参加してくれるのだろうかという

のを投げかけたときに、自分たちが作った筏くんだりだとか、川に入るきっかけをつくるイベントをやったら良いのではないかということが出たのですが、そのなかで特徴的だったのは、釣りとか、魚を捕まえて食べるという、漁をするという視点が今回は全国からきた子供たちから全く出なかったということ、コーディネーターの人が今の子供たちの特徴のように感じられたという様に言っていました。旭川流域ネットワークの子供たちはその中で、今、子供を塾に行かせるような馬鹿なことはやめて、もっと川を体験させた方がいいんだとか、楽しさ、学びの喜びが味わえるような川の体験学習ということをもっと重視してやるべきではないのかということを書いてくれました。全体としては最後に、良い出会いと良い感動が人を変えていくということ意識して、そういったことを広げて行くことが大事ではないかと言う様な形でまとめられました。結構この言葉というのはちゃんと理解すれば、すごく良い言葉だと思いましたので、もし、機会があればぜひご活用いただければと思います。なお、この会については北海道の旭川のエリアから子供たちも来ていて、北海道の旭川と岡山の旭川の子供たちが一緒になる場もありました。来年、水環境フェアが北海道で開催されますので、また北海道で会えたらいいなということをお話してきました。これが、水環境フェアへの参加報告です。

・旭川流域交流シンポジウム

今年は旭川源流の碑を、下流の岡山市牟佐地区にあります、太戸の滝に建立いたします。これを記念いたしまして、2007 旭川流域交流シンポジウムを11月17日に開催します。今回のテーマは『旭川らしさ、旭川のあるべき姿を探る』というふうにししました。その大きな理由は、この旭川流域ネットワークがそもそも出来た理由というのが、河川法の改正を受けて、河川整備に市民の声が生かされる、対話出来るという事の動きから、こういった行政と市民と一緒に連携してやる、繋がるということで作られた流域ネットワークであるという、その原点に立ち返るということと、それから今年、丁度今、中央の方で高梁川についても旭川についても、河川基本計画等の検討がなされて、河川整備計画も作られようとしている時期にありますので、そういうなかで、本来そういったところに意見が言えるような市民を育てるということで作ったネットワークですので、今回のシンポジウムはもう一回ちゃんと河川整備に自分たちの意見が反映できるようなそういった対話をきちっとしましょうということで、旭川らしさ、旭川のあるべき姿を探るというこのことをテーマにしております。基調講演に関しまして、桑子さんといって、『川と私たち』というテーマにしてあるのですが、東京工業大学の先生ですが、こういった問題に関して詳しい方ですので、私たちのこれからの旭川のあるべき姿、その中で河川整備にどう市民の声を生かせばいいか、ということについても色々ご指導いただきながら、それに基づいて、パネルディスカッション、分科会をとおして今後の旭川のあるべき姿を官民合わせて、行政の方と市民の方が一緒になって、議論できる良い場にできればと思っております。ぜひこの会には各自治体の皆様、流域連絡協議会の皆様には、出来る限り一人でも多くの方にご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。なお、17日にこのシン

ポジウムをやりまして、翌日の18日に旭川の源流の碑を牟佐に建てます。

源流の碑につきましては、来年度は美咲町の方に建立するというかたちで今、話が内々には決まっております。このシンポジウムの後の交流会、建立式の時に正式に発表して引き継ぎをするという予定であります。ぜひ、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

・AR-NETからのお願い事項について

昨年度の流連の方に旭川流域ネットワークからお願いした件がここに続けて書いてあります。昨年度、一応こちらの方から流域内の各市町村のみなさん方をお願いと致しまして、市町村が作られる概要書とか、観光パンフレットにぜひ11本の源流の碑を載せていただきたいとお願いさせていただきました。これからも新規に作られる場合はぜひ載せていただきたいと思います。実際、最近源流ブームということもあって、この源流の碑を周るツアーがあったりすると聞いていますし、周る時にどこにあるのかわからず探されるのに困られている方たちがおられたりすると聞きます。源流の碑を良い地域の資産としてご活用いただければと思っております。必要な情報はいつでも提供いたしますので、ぜひそういった市町村の資料に源流の碑のこともご記載いただけるようよろしくお願いいたします。また、11年経ちまして、初期に建てた碑がどんどん痛んできておりますので、建て替えをしないといけない状況もあります。1本目2本目辺りは建て替えを必要とするようになってきております。これに関してはおそらく真庭市の方に一番関わりがでてくるかと思うのですが、ぜひ建て替えに関して一緒になってご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。